

就職して 3 年になりますが、今でも駒場は心のふるさとだと思っています。先生のもとで貴重な時間を過ごさせていただき、どうもありがとうございました。

青木 梓
(日本総研)



大変お世話になりました。「未知／既知」など先生からの多くのお言葉をいつも意識しております。まだまだご教授いただきたい気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

青木 輝憲



長い間お疲れ様でした。駒場で勤務した 3 年間、そしてその後、先生といろいろお話しできて、とても楽しかったです。お体に気をつけて、これからもご活躍下さい。ありがとうございました。

坏 陽子
(大学入試センター事務部)



お疲れ様でした。またお世話になりました。「駒場友の会」は是非発展させていければと思います。健康に留意されご活躍を。

荒巻 健二
(国際社会科学専攻前専攻長)



私が山本先生とはじめて実質的なかわりを持つようになったのは、修士課程に進学し授業が始まる前という不思議なタイミングでした。

しかもなぜか学業以外の用件で、4 月 1 日 2 日に 1 号館であった学部生の入学「諸手続き」の会場の一角で、駒場友の会の入会勧誘(資料配布)の手伝いをしました。関連の先生なんてろくに知らなかった私が、どういうわけか呼ばれたのでした。おそらくそこでの印象が強か

ったせいで、私はいまだに先生のことを、研究指導を下される教官である以前に、事務仕事の上司として考えているようなところがあります。もちろんその後、学問的に多くのことをご教授いただきましたが！

しかもそのころは、私の学問的関心なんてそっちのけで、駒場友の会の作業の折々に、「あなた、(教養学部報を二つ折りにする手際が)なかなかいいねえ～」なんて言葉をかけてくれるものだから、自分は関連の院生にふさわしくないのではないかと不安でいっぱいだった当時の私にしてみれば、すっと肩の荷がおりたような気がしたのでした。

それからというもの、先生の作りだすあつかい空間に何度も助けられることで、なんとか孤独な研究活動を続けていくことができています。ゼミも駒場友の会も大好きです。2 年間ほんとうにありがとうございました！

東 悠介
(関連社会科学修士課程在籍)



これまで公私にわたり本当に色々とお世話になりました。困難に直面したときいつもそっと手を差し伸べてくれたのは山本先生でした。これまでの学恩にあらためて御礼申し上げます。

綾部 広則
(早稲田大学理工学術院)



ご退官おめでとうございます。山本先生にご指導いただいた時間は短かったですが、その短さが実感できないほど大変多くのことを学ばせていただきました。

言語が内面を経て人間を外面へと投げ出すとすれば、先生が教えてくださった学問の言語は、(内面での安住はできなくなったとしても)私のこれまでの人生における疑問を学問へ投げ出してくれる貴重なものであったように思

います。またご指導いただける機会をいただけましたら幸甚です。

安東 慶太
(相関社会科学修士課程在籍)



山本先生にはお元気で御研究に御教育に御活躍をお祈り申し上げます。

飯泉 京子
(国際社会科学専攻事務室 OG)



山本先生の研究室の隣に研究室があり(2号館3階)、よく立話をしました。研究者には退職はあっても、「停年」はないと思っています。

引き続き御活躍をお祈り申し上げます。

石井 明
(日本大学客員教授・名誉教授)



先生には、研究だけでなく、裏方仕事のやり方や、重要さも教えていただきました。深夜まで、調査票や報告書の準備をしていたことが、懐かしく思い出されます。

自分でも学生をもつようになり、「ほんとにそう思う?」と、よく先生に投げかけられていた言葉を、いつのまにか、指導学生に向かって口にするようになっていました。

長い間お疲れ様でした。今後もお忙しい生活を続けられるのですが、どうぞお体を大切に、充実した日々をお過ごしください。

石倉 義博
(1994-98年度在籍、
早稲田大学創造理工学部)



おめでとうございます。

石塚 静夫
(株式会社禅、代表取締役)



私にとって泰先生の一番古い記憶は 86 年頃の学部授業です。レヴィ=ストロース『悲し

き熱帯』を要約発表するゼミでした。

先生は「切れ者」と評判で学部生は話もできませんでした。私の担当回は、ポロロ族の村落形態と社会構造の関係を分析した章でした。

よくわからない文章を幼稚ながらも整理し図にして恐る恐る発表しました。

すると、それまでつまらなそうに聞いていた泰先生が、「そう、そう、これが構造なんだよ」と私のレジュメを手にもって皆にみせました。(ようするに誉められた?)と嬉しかった。先生は自信のない学生のちょっとしたアイデアを褒めて伸ばすのが上手だと後で知りました。先生の「そう、そう、これが」という声は今も頭に残っています。そして、おどおどしている学生の発表を元気づけるときに、使わせてもらっています。

その後、熊本県小国町調査(1995~6)に私も加わり、20年たった今でも小国町との付き合いは続いています。これは泰先生の「形だけのフィールドワークはするな」という思想に染められたからかもしれません。

その後も就活や博士論文などの重要な節目で、先生は嫌な顔をせずにアドバイスをしてくださいました。

今更お礼やお詫びをするには遅すぎる、失礼なことばかりしてきました。先生がしてくれたことを、私も後進にしてあげたい。それだけです。

石原 英樹
(明治学院大学社会学部)



本当にお疲れ様でした。先生から教えていただいたこと、日々の活動に効いております。ありがとうございました。

稲垣 雄右



2007年3月、桜というのは曇り空にもよく似合うんだな、と思いながら駒場を後にしま

した。FRESH START という、自分がいなくなった後に入学してくる新入生向けのイベントを企画してきて、この日も自分の卒業式は終わっていたものの、最後の東大での「仕事」として駒場に来ていたのでした。

このイベントをともに立ち上げた山本泰先生とは、その3年前から、「面白い授業紹介冊子」の作成などのプロジェクトでお世話になっていました。東大の初年次教育を改善しようとする先生と、東大新入生に流入する情報の大半がいかに楽をして単位をとるかの情報提供とサークル勧誘の場になっている現状に問題意識を感じた私たち学生有志は、大学の知とその魅力がより学生に伝わりやすくなるか約3年間にわたって議論し、企画し、一緒に「仕事」させていただきました。

卒業後、新聞社に就職することは決まっていたものの、当時の私は「すぐに戻ってくる」というつもりでいました。引き続き東大にかかわるという意味で、また、いずれ大学院に戻る、あるいは何らかのポストで戻ってきてもいいというような気持ちで。最後の日に、大変大変お世話になった山本先生にちゃんとした挨拶もせず駒場を後にしたのはそのような理由からでした。

あの日は桜が満開で、グレーの曇り空に溶け込みそうな薄いピンクがあんなにきれいだったのは後にも先にもなく、その光景をよく覚えています。結局、それから私が東大に戻るには9年がかかってしまい、その年、山本先生が退官されると知って、その歳月をかけてしまったことを今、大きく後悔しています。

でも、あの頃、独法化した大学が変わろうとする波の中で、学生の声を受け止め、共に未来を創ろうとしてくれた先生と出会えたこと自体が、非常に稀有で感謝すべきことだったと感じます。

先生の授業には出たことがなかった私です

が、最終講義でおっしゃっていた、社会学が「すでにあるものを煮たり焼いたり」ではなくワンダーなものを目指すことと、現実の問題を変えようとする情熱はリンクしているように思います。その精神を忘れず、引き継いでいきたい、退官後であっても再び、共に考え、歩み、ご指導をいただける場があることを祈ります。

井上（中野）円佳

（教育学研究科博士課程・ジャーナリスト）



泰先生とのやりとりはいつも禅問答のようでした。その場では何のことか分からず、後々になって分かることも多々ありました。このように不出来な門弟でしたが、いつも温かく迎えて下さったことに感謝申し上げます。退職後も仙人のように生きられると思いますが、どうかお元気でお過ごしください。

猪股 祐介

（京都大学国際交流推進機構）



ご無沙汰しています！私は学究の世界から離れて NPO/NGO の世界での仕事をして22年経ちました。先生も退官なのですネ。今日は大変なつかしく、先生の世界、社会学の世界のひとつときを過ごさせていただきました。ありがとうございました。

今田 克司

（修士修了86年、

CSO ネットワーク代表理事）



佐井村、小国町、栄村調査では、たくさんの経験と「地域を知るべし」という思いを伝えていただきました。調査後、院生室のPCでアンケート調査をまとめたり、プレゼン資料をつくらせたりしていると、実は全てお膳立てしていた泰先生が、うれしそうにPCを覗き込み、言葉をかけてくださる・・・そんな日々を映写機を見ているように思い出し、私はこうして育てら

れていたのだ、と胸が熱くなります。博士論文審査でも、がむしゃらにやっている私の少し先を見据えたコメント。最後まで気付かされ、教えていただきました。長きにわたり本当にありがとうございました。

岩澤 美帆
(国立社会保障・人口問題研究所)



たいせんせいは今でも私のココロのボスです。

お体を大切に、いつまでもかっこいいボスでいてください。

岩田 以都子
(山本研究室秘書 OG)



学部の時にとった社会学の授業は今でも覚えています。地域活性化やギャング・ヤクザについてゆっくりお話ししたいです。34年間お疲れさまでした。今後ともよろしく願いいたします。

受田 宏之
(国際社会科学専攻)



ある場所で、「社会学というのは、どう分析すれば面白くなるかはなかなか教えてくれないのに、どのように議論するとつまらなくなるかだけは、いやというほど教えてくれる学問だ」という文章を書きました。もちろん、そのとき頭に浮かんでいたのが、山本泰先生のお顔であり、イノセントに質問するかのような「あの」表情を中心に編制された「山本ゼミ」という場であったことは言うまでもありません。

いや、本当に、「いやというほど」教えていただきました(笑)。その「不毛さ」の先に、はじめて社会学が始まるということも含めて。先生とは、関心も研究対象もまったくちがいますが(その点では、山本先生はじつに寛容でした)、その意味でやはり、自分はまごうことな

き山本禅匠の弟子であるのだなあと思っています。山本ゼミでなかったら、もしかしたら、もっと「幸せ」な研究生生活だったかもしれせん。でも、自分にはやはり山本ゼミしかありえなかった。心からそう思います。

長い間、お疲れ様でございました。

遠藤 知巳
(日本女子大学)



最終講義、楽しく拝聴しました。ユータスクンの出世は泰先生なくしてはありえませんでした。どのような形になっても、ずっとユータスクンのお世話をしていくことになると思っていますので、見守って下さいますようよろしくをお願いします!

遠藤 暢雄
(東京大学本部学生課)



駒場キャンパスで困ったことがあると、いつも泰先生に助けていただきました。たくさんのお仕事をかかえていらっしゃる中でも、いつも、自然の変化や旬の食材に目を向けていらっしゃるライフスタイルがとても素敵でした。一緒にいただいた、柿やネマガリダケが忘れられません。

今後ともお体にお気をつけて、ご活躍ください。

大瀧 友里奈
(一橋大学)



ごめんなさい。駒場時代には大変お世話になりました。りかけつきたいのですが、ただいま体調をくずし、ちょうど3月末から4月にかけて病院で検査入院の予定となっています。ご盛會を念じております。

大森 彌
(行政学、名誉教授)



先生には仕事のイロハを教えていただきました。学生との関係の築き方も、アイデアを膨らませて形にしてゆくやり方も、学生をうまく巻き込みながらプロジェクトを遂行することも、ほんとうに何もかも。先生のおそばにいなかったら学べなかったことを挙げてゆくとキリがありません。いろいろなプロジェクトを進めながら、先生のお姿を思い出したり、「たい先生だったらどんなヒントをくださるだろうか」と考えることが、たびたびあります。まだまだ全然先生の足元にも及びませんが、仕事における山本先生の弟子の一人(に入れてくださいね)として、先生に一歩でも近づくことができるように、がんばってゆこうと思っています。

定年をお迎えになるということ、お祝いを申し上げなければいけないのはわかっているのですが、最終講義では泣いてしまいそうです。これから、たとえば駒場友の会の役員としてなど、駒場にかかわっていらっしゃるご予定はあるのでしょうか。

先生がいらっしゃらない駒場なんて考えられないです。退職なさっても駒場で先生のご尊顔を拝する機会が、そして軽妙だけど奥が深い山本節を拝聴する機会があれば、ぜひ参上したいと思っています。

岡田 晃枝

(国際関係論コース、教養教育高度化機構)



たいせんせいご卒業おめでとうございます。これからもクロマグロのように止まらずに泳ぎ続けられるんだと思いますがときどきはスローダウンしてどうぞご自愛ください。

岡元 真希子
(日本総研)



ご退官おめでとうございます。
昨年中に、長年にわたるいくつかの仕事が形

になりましたが、いずれも山本泰先生の影響が深々と刻印されています。博士論文を書籍化した『「進学」の比較社会学：三つのタイ農村における「地域文化」との係わりで』（ハーベスト社）の「進学」というテーマは、学部・大学院時代からの継続ですが、その時代の論文と根本的に異なるのは、「調査」に基づくことです。この転換は障害者の自立生活調査の衝撃を直接的背景としているものの、当時僕の周囲では「調査」で論文執筆するのは普通ではなく、三つのタイの村で六か月ずつ滞在調査するなどという方向性は、先生ご自身のご研究はもちろん博士論文の書き方についてのお考えをうかがったことを太い導きの糸としています。

また、雑誌 *Comparative Sociology* (vol. 14) の特集 “Comparative Sociology of Examinations” も、大学院時代のテーマ「試験」を引き継いだものですが、自分の論文が「調査」ベースのものになったことのみならず、雑誌への掲載を最優先の課題とした判断自体、もとはといえば、山本泰先生が、雑誌『*相関社会科学*』の編集に心血を注がれ、雑誌が研究ネットワークにコミュニティを創成するために基幹的な役割を果たすと教えていただいたことに由来する面が抜きがたくあります。それらの刻印の数々は、今の僕に豊かな実りをもたらしてくれていると実感しています。厚く感謝申し上げます。

尾中 文哉

(日本女子大学)



長い間、ご苦労さまでした。老生、脚力低下著しく、残念ながら出席できませんが、ご盛会を祈り上げます。お集まりの皆さまによりしくお伝え下さい。

折原 浩
(名誉教授)



泰先生、長いことお世話になりました、ありがとうございます。退職とはいえ、まだまだ在学中のゼミ生がたくさんいるので、巣立つまでは気苦労があることと思いますが、ひとまずのんびりしてください(のんびりできないかな?)

たまには飲みにも誘ってください。

神子島 健



この度はご退官おめでとうございます。

私が今日あるのは先生のおかげであり、先生に学んだ指導が私の学生指導の念頭にいつもあります。大学の環境は日々厳しく変わりつつありますが、最も大事な研究・教育の本質を教えてくださいましたのは先生であり、その点は全く変わるものではないと感じております。

私は社会学の中でラカン研究をやるといって、マイノリティであったのですが、先生のおかげでひとりの研究者として旅立てたと思います。

先生が東大在任中に博士論文を書くことができなかつたのですが、その構想でご相談に乗っていただいたときに、「心理学化」の考察においてとても重要な示唆をいただき、その後の研究に生かすことができました。

退官後も、ますますご活躍されることを心より念じております。

櫻村 愛子

(愛知大学文学部人文社会学科)



かつてクロード・レヴィ=ストロースがマルセル・モースの思想について語ったときの言葉(「マルセル・モース著作集への序文」の冒頭部分)を借りれば、Peu d'enseignements sont restés aussi ésotériques et peu, en même temps, ont exercé une influence aussi profonde que celui de Yasushi Yamamoto. (山本泰の教えほど、いまなお秘教的でありながら、同時に深い影響を与えてきたものも珍しい)という

ことになるでしょうか。

山本先生、長い間本当にお疲れ様でした。

葛山 泰央

(筑波大学)



山本泰先生には相関社会科学の学生の時にはお若い助教授として、また駒場に就職してからは同僚として、大変お世話になりました。ご退職とお聞きしまして月日の流れを感じます。今後とも、お元気で活躍ください。

加藤 淳子

(法学政治学研究科)



ご無沙汰しております。2004年に相関社会科学コースを修了後は国際協力機構に就職し、今は主に保健分野の研修企画を担当しています。

大学院に入学した際の泰先生の「君たちはミミズ。何らかのものを消化し、肥料となるような何かを後に残してほしい」というメッセージ、今でも心に残っています。「私たちは、この世界に何か良いものを生み出せる」という明るい希望に心がぽっと温かくなったような気がしました。

振り返って、これまで自分が具体的な何かを生み出してきたか、ということ心もとないですが、今の職場において、研修参加者には知識と、他国の人間への信頼、そしていくばくかの自信を得て帰国いただいている、とはいえるかと思えます。研修中、日本側からは、「あなたたちはみな特別な存在であり、国や世界を変える原動力となれる」ということを繰り返し伝えていました。

泰先生の人間の可能性を信じる姿勢、メッセージを少し言葉を変えてお伝えしていることになるのかもしれない、と思います。

大学院在学中、温かく導いてくださったことに改めて感謝申し上げます。今後の先生のます

まずのご活躍を祈念いたします。

加藤 恵
(国際協力機構)



その節は大変お世話になりました。ますますのご活躍をお祈りしております。庭師になりたい、農業やりたいとおっしゃっていたことを思い出します。

上遠野 真理子
(教養教育開発機構職員 OG)



相関社会科学分科に進学した当初は在外研究でご不在だったため、大学院進学後にお目にかかりました。ちょうど社会調査実習が始まった頃で、青森県佐井村や熊本県小国町での実習でお世話になりました。山本先生は立ち上げ期のこれらの実習を実務面から支えてくださっており、大変なご苦労をされていたことと推察します。

個人的には、報告書の作成等のために皆で深夜まで院生室に居残って仕事をしていたときに、たびたび食事に連れて行ってくださったことが思い出として心に残っています。今後ともお元気にお過ごしください。長い間ありがとうございました。

金井 雅之
(専修大学人間科学部)



無事にご定年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。ご在職中はひとかたならぬご厚情とご指導を賜り、深く感謝申し上げます。山本先生が定年を迎えられると伺い、時の流れの早さを感じています。

山本先生にとりまして、私は決していい学生ではありませんでしたが、先生の薫陶を受けられたことをとても光栄に思っており、私の人生において貴重な財産となっております。

ご定年後もどうかご健康に留意され、第二の

人生をお元気でお過ごしください。今後ますますのご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

金戸 幸子



山本先生について浮かんでくる情景や事柄は、その存在感に比して、幾分か断片的です。例えば修士に入るときの面接で言われたこととか(たぶんそれで緊張がほぐれました)、一番初めの研究計画における助言とか(ストリートペーパーの比較をやってみたらとかそういう話でした)、研究室での面談の時のコメントとか(Ex.エポケーの必要性)、山谷の山友会さんに話を聞き終わった時の場面とか、挨拶したときの反応が予期していたものと違っていったこととか。

こうした断片をひと繋ぎにしてうまくお伝えすることを躊躇する、あるいはできないところに私の昔からの危なっかしさをお認めになるかもしれませんが、山本先生の言葉や動作は、私の駒場生活のそこそこに埋め込まれているように思われます。(ただし、もう少し自覚的に受け止めていたら、かつ受け止める力があれば、自分がよりまともになれたのではないかも思います)。

そして、その客観的な範囲は、私の主観的な印象よりずっと大きいようです。昔のメールを見返していたら、自分が記憶している以上に、アドバイスを頂いていたことに気がきました。また 2 号館図書室(アルバイト紹介ありがとうございました)についても興味深いやり取りをしているのを再発見しました。

おそらくそういうわけで、私の中で駒場と山本先生があまり切り離せず、なんだかずっといらっしゃるような気がしていたので、山本先生の退職のときはいつか来るのだろうなと思いつつもあまりそのことにリアリティを感じられませんでした。今回、最終講義が行われる

という話を聞いて、改めて先生のいない駒場を想像してみて、不思議な気持ちになっています。

とはいえ、駒場を離れるこれからの山本先生が、どんな社会学を展開されるのか今から楽しみにしております。

今回、改めて先生に感謝するとともに、ご健康とご活躍を祈念いたします。

川島 章平
(名古屋市立図書館)



直接の指導教員ではなかったにもかかわらず、学部・修士と一方ならずお世話になりました。谷根干や大久保、中目黒を先生と歩き回る中で東京、あるいはもっと一般的に「社会」を見ることができるということを知ったように思います。ご退任後も、変わらぬご活躍をお祈りしております。

植木屋か政治家になるのはまだですか？

川戸 崇志
(2015年3月修士修了、
マッキンゼー日本支社)



駒場での長きにわたるご指導、誠にありがとうございます。もうしばらく拙稿をお忘れなきようお願い申し上げます。

岸 清香
(都留文科大学)



懇親会には伺えませんが先生の最終講義を楽しみにしております。ご無沙汰しておりますが、地域調査で一緒させて頂いた時のことが昨日のこのように思い出されます。先生のエネルギーに胸打たれます。

岸野 洋久
(農学生命科学研究科)



相関といえば泰先生、泰先生といえば相関。

そんなイメージを今でも持っています。

先生はいつお目にかかっても穏やかで、不安いっぱい院生生活に安心感を与えていただきました。また、先生のもとで2002年度「地域社会論」のTAを勤めた経験は、いま私がフィールドワークを伴うゼミ運営を行う際に生かされています。

もっとも院生自治会時代は本郷や国関に比べれば劣悪な相関の院生の研究環境を改善しようと思わない“分かってくれないオトナ”のひとりだとも思っていましたし、先生が雑誌『相関社会科学』を「子どもの雑誌」と呼んでいると聞いたときには、それこそ子どもじみた反発も覚えました。

ですので、私は社会学専攻ではありませんでしたので、泰先生は「教師」というよりも、いろいろ教えてくれる優しい「上司」であり、ちゃんと見守ってくれて安心して反抗できる頼もしい「父親」のような存在でした。

2号館の事務室のあるフロアをウロウロしていれば、そのうち飄々とした出で立ちの泰先生に会える、そんな気がしています。ありがとうございました。お疲れさまでした。

木寺 元
(2002年-06年在籍、明治大学)



頼れる人に多謝

山本泰さんを送る言葉を考えてみると、感謝という一語しかない。米国に在外研究に出かけていた2002年初めに評議員に選ばれてしまい、帰国翌日の4月1日からその職についた時、まず待っていたのは大学評価・学位授与機構による駒場前期課程の教育・研究評価だった。それまで学部長室で働いたこともなく途方に暮れた私が全面的に頼ったのが、山本さんだった。

2005年に研究科長・学部長になった際には、山本さんが評議員だったので、安心して仕

事を始めたのを覚えている。そして、その年に発足した教養教育開発機構の運営・活動全般で大活躍をされる山本さんに、終始引っ張っていただいた。一高同窓会との気を遣う関係も、山本さんが潤滑油の役割を演じて下さったおかげで、スムーズに運んだ。

その他、山本さんにお世話になった事例は数多く、非力な自分が駒場で与えられた任務に何とか堪えることができたのは、山本さんのおかげだった、と今改めて感じている。本当にありがとうございました。

木畑 洋一
(イギリス史、前教養学部長、名誉教授)



在学時はお世話になりました。卒業しても、会社でも社会学のワンダーを追って頑張っております。先生の講義が聞いて相関生であってよかったと心から思いました。

金 禧庭
(株東レ)



研究面はもちろんですが、それ以外にも教育や学習について、グループの活性化についてなど、本当に多くのことをさまざまな形で教えていただきました。これまでと場所は変わるのかもしれませんが、引き続きの活躍をお祈りいたします。

久木元 真吾
(公益財団法人家計経済研究所)



先生のもとで学んだこと、何ものにも代えがたい幸せな経験です。当時は片道およそ1時間半かけて通っておりましたが、先生にお会いするのが楽しみで、ほとんど休みなく大学に通ったことを思い出します。心が重い時も、先生とお話をしていると、不思議と元気になったものでした。

先生がご退職の日を元気に迎えられること、

心から嬉しく思います。本当にお世話になりました。先生、今後も何卒ご自愛ください。

工藤 瑞夫

(人間の安全保障プログラム修士修了、
タワーズワトソン)



退職おめでとうございます。これを機に新・山本泰氏のワンダーランド誕生を切に望みます。

小松 広



神戸調査で先生に初めてお会いして以来、社会学の面白さをたくさん教えていただきました。そして、人を自由にするための学問としての社会学ということも自然と学ぶことができたように思います。ありがとうございました。

是川 夕
(国立社会保障・人口問題研究所)



先生には、私が国際社会科学・法学教室在職中大変お世話になりました。特に、大学院と学部後期教育充実のため、先生が各種コロキウム(指導体制)の設計・運用に非常に熱心に取り組まれていたことを思い出します。

ただ、学生にコロキウムについて温顔で懇切に説明されるときに、研究の節目という意味で「木戸」という言葉が使われるので、今の学生にはちょっとわからないのではと思いつつも指摘せずじまいでしたが、今も使っておられますでしょうか？

今後のご健勝、ますますのご活躍を祈り上げます。

斎藤 誠
(法学政治学研究科)



院生時代、とくに博論の指導で大変お世話になりました。にもかかわらず、ごぶさたしたままになっています。10年以上がすぎて、当時

はよくわかっていなかった先生の言葉をふと
思いだし、今もかみしめております。ありが
うございました！

酒井 千絵
(関西大学社会学部)



私が学生時代お会いしたときの山本泰先生
は、よく守衛さんからも学生と間違えられ
という、まだ若々しさが漂っていた先生
でした。優しい雰囲気、飄々としてい
ながら、ときどき鋭い指摘や突っ込
みをされ、先生というより、導いて
くれる先輩というか仲間のよう
な感じで接してくださっていたので、
ゼミは、本当に皆で好き勝手、や
りたいことをやり、言いたいことを
いい、振り返ってみれば授業という
より楽しい自主ゼミのような学問
の場だったと思います。

指導教員ではなかったのですが私の
卒論も読んでくださっていたようで、
どこかでその一部を紹介してくだ
さったという話を聞いて、とても
嬉しかったのを覚えています。学生
に对等に接し、その良いところを
うまくすくい出し、さりげなく励
ましてくださる先生だったのだ
なと思います。

体調を崩されたと聞きましたが、
どうぞ、これを機会に職務なしで
学問を楽しまれていてください。
あのころはお世話になりました。
ありがとうございました。

坂本 佳鶴恵
(お茶の水女子大学文教育学部社会学
コース)



長い間、様々な任務に奔走され、
ご苦労も多かったことと存じます。
大変お疲れ様でした。これからの
ますますのご活躍を、心より願
っております。また、駒場でお目
にかかる機会もあるかと思いま
すので、今後共宜しくお願い致
します。

佐久間 雅
(山形大学地域教育文化学部)



山本先生、お疲れさまでした。大
変にご無沙汰しております。数年
前お邪魔した時に高校生だった
娘も今春4年生になります。泰
先生、真鳥先生のおかげで我が
家族も出大家族となるべく進
行しています。

最終講義でのお話、①大きな
仕事には時間がかかる、②自
分のいるところが世界の中心
ではない、③人と正面から向
き合うことから何かが生ま
れる。大変に心に響きました。
娘は就活で何えず残念では
したが、伝えました。先生の
すばらしいお人柄が感じられ
る会でした。今度ともよろ
しくおねがいします。

櫻井 庸子



なつかしいです。お元気そう
で、うれしいです。おたがい
家族を大切にしましょう！

櫻井 芳生
(鹿児島大学)



お疲れさまでした。今後の御
活躍を楽しみにしています。

佐藤 美奈子
(2001年単位取得満期退学)



「泰先生！」と、声に出して
呼ぶと、すぐに先生がどうも
どうも、と、近くにきてくださ
るような気がします。私が駒
場に勤め始めてから約10年
間、最も近くで笑ったり泣
いたり、学部長室での濃い時
間を一緒に過ごさせていた
だきました。

あの頃の私にとって泰先生は、
もしかして家族よりも近い存
在だったかもしれません。ま
だ若く勢いだけはあった私
の、いらだちや不満を一番に
ぶつけたのも泰先生でした。
今、思うと、若さって怖い。。
と恥ずかしくなってしまう

す。泰先生、ごめんなさい。

それでも、私の人生の節目、例えば結婚が決まった時、まず報告をしたのも泰先生。その時、人目もはばからず私を抱き寄せて喜んでくださったこと、お祝いしてくださった会の時に、私がお礼のスピーチをすると涙ぐんで聞いてくださったこと、先生は照れて何もスピーチしてくださらなかったことなど・・・今でも鮮明に覚えています。私の人生での、本当に大切な宝物です。

そんな泰先生に、心からお礼を言いたいです。

結局、私は泰先生の大きな手のひらの中で、心から安心して、駒場での仕事を思いっきり楽しんでいたので、今は思っています。

お仕事で一緒にすることがなくなった今でも、駒場の並木道や101号館脇などを通ると、泰先生の気配を感じていました。大学のどこを歩いても、泰先生との思い出があります。

山本先生に、言葉では言い尽くせない感謝の気持ちを伝えたいです。

泰先生、長い間、本当にありがとうございました。泰先生との思い出、忘れません！

塩津 綾子

(学部長秘書 OG、18号館事務室)



泰先生、職員を信頼し、多くを与えてくださり、ありがとうございました。

渋谷 聖子

(人文社会系研究科事務部)



泰先生に出会って社会学を学ぶことができ、本当にラッキーでした。ありがとうございました。

澁谷 智子

(成蹊大学)



振り返ると6年。学部2年生のとき、偶然先生のご講義を受講したことがきっかけで進

学のご相談をさせていただいたことを覚えていらっしやいますでしょうか。その後、相関社会科学へと進学して以来、先生にご指導いただいてきた時間は、短いといえはとも短いながら、長いといえは非常に長く、私にとっての「相関」という場所が大きく変わる予感に戸惑っています。

卒業論文と修士論文という二つの扉を叩くに当たって、先生は長い時間をかけて向き合い、語り合ってくださいました。ときには長いメールが何度も往復することもありましたし、実際に街に出て人々や場所の声に耳を傾ける方法を教えてくださったこともありました。ゼミのなかだけではなく、ときには路上で、まちなかで、あるいはおいしいごはんと一緒に、病院のなかでさえ、先生の与えてくださる閃きは難しいながらもわくわくするものばかりでした。そのときはわからなかったことも、書き進め、考え続け、年を経るにつれて腑に落ちたり、まったく気づかなかった方向性を示して下さっていたことに気づいたり、常に私の遙か先を見つめて導いてくださいました。何度も自信をなくし、道を見失う私でしたが、私以上に私の研究テーマの面白さを見出し、様々な角度から考えてくださる先生のご助言に幾度となく助けられてきました。

そうして振り返ると、私は先生に手を引かれ、知らず知らずのうちに社会学の世界に、それだけでなく学問の世界に誘われていたのだと気づきます。山本先生は、私がおそるおそる学問の道に一步踏み入れたときから、はじめての「先生」であり「師匠」であるからです。

地域調査の方法や論文の書き方など具体的なことの他にも、愛をもってしてテーマを決めること、星の王子さまのように時間をかけること、「社会」の捉え方など、私自身の基本的な考え方に先生の教えが編み込まれています。

見よう見まねで歩を進め、道を見失ったら迷

わず駆け込む、先生の不在を心細く思うことも多々あると思うのですが、どうかこれからもあたたかいご指導・ご鞭撻いただけます機会があることを心待ちにしております。本当にありがとうございました。

申 惠媛
(相関社会科学博士課程在籍)



毎週のゼミ、とても楽しかったです。ありがとうございました。

菅 摂子
(相関社会科学博士課程在籍)



長い学生生活の大半を指導学生としてお世話になりました。キャンパスで、街なかで、どんな相手にもフラットに向き合う泰先生のたずまいが懐かしく心に浮かびます。着地点の見えない発表にも「この人はこういうことが言いたいんだよね」と意図を掬い取り、信じて見守ってくださったこと、心から感謝しています。

最終講義の最後、「社会学って、真正面から人に向き合うことなんだよね」との一言に胸が熱くなりました。その教えがいま私の日々の中にあります。ありがとうございました。どうぞ身体を大切になさってください。

須永 陽子
(生活クラブ生活協同組合)



1999年の神戸調査以来、はじめは実習の学生として、それから機器室の RA や基礎演習の TA として、最後には博士課程の指導学生として博士論文を提出する 2009 年まで駒場におりました 10 年に渡って本当にお世話になりました。先生の研究室には何回お邪魔したかわかりません。先生がどんどんお忙しくなられていく中で、アポイント無しで研究室にうかがっても、いろいろな相談に乗ってくださったのがいかに貴重なことで、ご迷惑をおかけ

したことだったか、自分が教員になってみて実感しました。

私はどんどんテーマを変えてしまう困った学生でしたが、テーマを変えている中でもその中に通底する問題意識を拾い上げてくれたのは先生だったと思います。今でこそ、修士論文から現在までの一貫性を自分で意識することはありますが、それは適切な距離感でのご指導のおかげだったのだと感じています。もちろん、そういう一貫性と乱雑なテーマ選択は今でも続いているわけですが、入院された先生のところにお見舞いにかがったとき、最近の研究テーマとして都市問題、とりわけ住宅やそれにまつわる人の移動に関心を持っているとお話したときに、「やっぱりね」という顔をされたのが本当に印象に残っています。

調査や論文指導でお世話になっただけではなく、RA・TA でさまざまな仕事をお手伝いさせていただいたことも、現在の自分に強くつながっていると感じています。機器室は博士課程のときの私の半ば生活の場所でしたし、夜中に先生が裏のドアからいきなり現れるのには驚かされたものでした。そして、RA 関係の仕事の中でも一番印象に残っているのは人間の安全保障プログラムのお手伝いです。外の人に魅力を感じてもらうためにはどうしたらいいのか、ということを考えるのは、本当に貴重な経験でした。

書き始めるといろいろとキリがなく思い出すことがありますが、自分が大学で仕事をする中でも先生ならどうされるだろうか、ということを通じてまた思い出して行きたいと思いません。

お忙しい仕事から離れられて、まずは健康に留意されながら、ずっとお話されていたように、大学でのお仕事についてなんらかのかたちでまとめられるのを楽しみにさせていただきたいと思えます。

砂原 庸介
(大阪大学)



教養から専門課程に進もうとしているまさにいま、山本先生の社会学に触れられて、この先社会学を学んでいく活力が得られました。本当にありがとうございました。

惣田 亮助
(社会学専修課程在籍)



修士論文を終え、比較分析の軸や理論的な方向性について、色々悩んでいた博士課程進学時のときでした。「博士課程では、もっと地道に、地域のケアの社会化のありようから丁寧に調べ、地に足のついたスタイルで、比較研究を考えていった方が、あなたにはよいと思うよ」。

先生のご指導なくして、今の自分はありません。

「ケアの社会化とコミュニティ」をテーマとした世田谷調査の TA をさせていただきながら、世田谷区の保育ママや地域子育て支援現場のフィールドワークに、先生や学部生と一緒に精力的に行った日々が、まるで昨日のこのようです。

その日々の中で、「子育て当事者である市民・行政・社会福祉協議会・NPO・民間企業など多様な主体が、どのように課題を認識し、どのような活動を行っているか、そのネットワーク形成や政策形成のダイナミズムを、比較の手法を用いながら、実証的に解いていきたい」と抱いた研究動機は、今でも自分の研究の根幹となっています。

また、山本先生は、デュルケムを制度論として読み直すなかで、ダイナミックな制度論の必要性を主張されています。デュルケムの制度論の本筋を「制度、あるいはより具体的には、ある特定のルールへの服従こそが、社会の秩序の条件であると同時に、諸個人の『自由』の条件

そのものである」(『デュルケム』を越えて」41 頁)と明快に論じられています。そして、近代社会は個人の論理が全面的に支配的になった社会であるが、同時に社会的なもの(法や道徳などの規範)の領域は拡大し、その機能もより積極的になったこと。さらに、自律的な個人を生み出すメカニズムそのもの、つまり、規律・訓練を含む複合的な規則や規範への着眼の重要性を指摘されてきました。デュルケムの「有機的連帯」は、共同体の崩壊ではなく、「自由な個人」という「制度」の信憑の限界を露呈するものであり、より積極的なモードにおける「共同的なもの」の展開とみるべきだ(同書、37、40 頁)との視座は、社会政策・社会福祉制度のダイナミズムの研究にまさに欠かせないものだ、と博士課程のとき、駒場の図書館で震えました。

自分が大学教員の端くれとなった今、いかに山本先生が、学内の業務や、ご公務(武蔵野市など自治体のコミュニティ施策や計画策定の委員長等)も重なる中で、論文・学振の申請等のご指導に対して、多大なお時間を割いてくださったか...そのご指導の厚さ・深さに、心より感謝いたします。先生の学恩に報いることがまだできておらず、自分のすべき研究・教育に集中しなければなりません。

出産後の年末の忘年会の前に、先生の研究室にお邪魔しました。久しぶりの駒場キャンパスを、ベビーカーをおしながら歩いていると、ムスメは珍しく、すやすや寝入りました。山積みになった本の山をどかして、先生は、狭い研究室にベビーカーもわざわざ入れて下さり、すやすや眠るムスメを隣に、久しぶりに先生とゆっくりお話できたのが本当にうれしかったです。

そのとき、「子どもを育てることと、論文を書くことの価値」について、先生が励ましてくださったこと、忘れません。

なによりも、先生、お体を大切にしてください

い。今後ともよろしく願いいたします。

相馬 直子
(横浜国立大学)



山本先生のこれからの益々のご活躍、ご多幸をお祈り申し上げます。

高橋 正樹
(朝倉書店)



駒場の教務課時代は2006年のアメリカ研修出張(みらいプロ)等色々とお世話になり、ありがとうございました。ハーバード大学などあの一連のイベントは今でも語り草になっています。繁樹先生を支えて、また同窓会がやりたいですね。

長い間、おつかれ様でした。

高橋 悠
(東京大学事務部)



長い間、ごくろうさまでした。先生が在職中に、本郷・駒場の協力関係を強化できればと思っていました。今度とも、社会学のためにご健勝ください。

武川 正吾
(人文社会系研究科)



本日の最終講義を拝聴して、社会学の本質の一端が理解できるようになりました。

武嶋 俊行



先生の演習において河合塾の模試の採点をしていた等々の奇行——それが合理的な行動であったかと思っていて、実は今でも思っている私は、たぶんそこが変なのだろう——は、だいぶ誇張されて、その後の人々によって語られていると聞くので、それは誇張ですと言うだけにとどめよう。

先生との会話で私が覚えている——二人の

人が話すことで双方が覚えていることはたいがいとても違っている——一つは、きみは倫理的な嗜好(という言葉ではけっしてなかったが、覚えていない)があるんだねえ、橋爪(大三郎)さんにもそういうところあるね、みたいなことを、いつもの、なんでもちょっと皮肉っぽい、すくなくともそう聞こえる言い方で、言われたことだ。そして、いまは「規範理論」とか括られる類のもの——当時は「規範」という言葉の使い方が少し違っていただけ——をやってきたところはたしかに私にある。

それからまったくのわたたくしごとを。先生は吉祥寺に住んでおられ、私は三鷹に1985年から1995年まで暮らしていた。その間、1990年だが、こちらに子が生まれ、その時、どんな流れでそうなったのだろう、というか、たんに子が生まれましたと報告しただけだと思うが、吉祥寺のお宅に呼ばれ、そのお宅でかつて使われた赤ん坊用の食卓椅子をくださった。その椅子で飯を食って育った子は、文系的なことはしんでもやるまいと思ったかどうかは知らないが、別のジャンルの「社会人」になっている。

私が大学院に入ったのは1983年、それから30年以上の間、たぶん、私は市野川(容孝)が講義で話せと駒場に呼んでくれた時にすこしお会いした以外、時どきのお知らせも、(最初の単著とたぶん最初の共著以外は)本をお送りすることも、なにもしてはこなかった。まさに不肖の弟子である私が、最初に先生を指導教員にした人であって、困ったものだ。ただこの同じ時間は、先生はそんなことを気になさっていないだろうと思っていられた時間でもあって、そしてこれからは私は不肖の弟子であり続けられるのだろうと思っている。

立岩 真也
(立命館大学)



私は政治学の専攻で、実は先生の授業やゼミなどに参加したことはないのですが、2号館6階の機器室利用にあたって、先生には大変お世話になりました。

先生は時々ふらっと立ち寄ってくださって、トラブルはないか、こんな症状が以前あったようだが大丈夫か、と気にかけて下さいました。PC基盤の整備は、研究を志すものにとって生命線のようなところがあります。普段当たり前のように使っていますが、実は先生のご奮闘に支えられて、私たちの研究生生活は成り立っているのだと思います。

2月25日二次入試の当日も、先生は「基盤センターが閉まっているけどインターネットは接続できる？」と気にかけて下さいました。

先生の人間的な温かみと、きめ細かいご配慮を、十年近くになる駒場生活の中でたくさん頂きました。心より感謝申し上げます。

今後益々のご活躍を祈念いたします。

田中 雅子

(相関社会科学博士課程在籍)



2004年に相関に進学し、06年に卒業した田中雄治です。学部卒の私のような者も最終講義にお招きいただきましてありがとうございました。

山本先生には、前期課程生だった2003年に「ケアの社会化とコミュニティ」という世田谷区での調査の際に大変お世話になりました。まだ大学2年生であった私にとって、図書館で文献をあさったり、大学の外に出て様々な方にインタビューをしたりする経験は大変新鮮でした。当時お世話になった世田谷区の皆様の中には現在もつながりがある方もいて、区内の住民活動に仕事以外の社会貢献活動として携わっています。

後期課程進学後は、先生が副学部長を務めていらっしゃることも、先生のご活躍を

直接受ける機会はなく、社会学の世界の魅力を先生からもっと学ぶことができたならと残念に思っています。

駒場での長きにわたる研究や教育、本当にお疲れ様でした。退職後も、多方面で活躍されることを心より願っております。

田中 雄治



一昨年、つまり2014年の9月に山本先生が突然、がんの治療のために都立駒込病院に入院された折はほんとうに驚きました。

でも、先生はときどき「出所」と称して一時退院をされて、その時は駒込のおせんべいなどを持って私たちを励ましに来てくださっていました。ほんとうに心のお強い先生でいらっしゃいます。

幸い半年で全快され、最後の1年、またお授業やご指導などにフルに活躍され、このたび定年をお迎えになられたのはたいへんにうれしいことです。

平素より国際社会科学専攻事務室でのパソコンの管理から困りごとの相談まで何もかも力になっていただき、心から厚く御礼を申し上げます。

これからも時々はお心にかけていただき、元気なお顔を見せていただけましたら幸いに存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

田辺 雅子

(国際社会科学専攻事務室)



先生に初めてお会いしたのは、ちょうど10年前の夏でした。いきなりソウルから研究計画書と自己紹介のメールをお送りしたのですが、すぐに「それなら私の研究室に来て、面談をしましょう」と言って頂けました。それ以来、いつも私の大きい柱として力になり、研究のことから生活面まで、いつも傍で親身にご指導をし

てくださったことに心から感謝しております。

ご闘病中も、私やゼミ生のことを心配されていて、何度も「あなた方がいるうちは、元気ではない」と仰っていました。春になって先生が本当に以前と同じような元気な姿で戻ってこられた時は、私やゼミ生のことをなによりも大切にしてくださっているのだと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

先生の学生としてたくさんのことを学べた私の大学院生活は本当に楽しい時間でした。これからも、先生から学んだことを形にできるようにがんばります。

なによりも、先生のご健勝を心よりお祈りしております。

崔 佳英

(2016年度博士号取得)



泰先生との出会いは、関連の授業ではなく初年次教育の開発部門でした。1、2年生の教育を真剣に考え、設備を変え、さまざまな「しかけ」をつくる先生の姿を見て、また学生の意見にも耳を傾けてくださり、よい大学に入った、しっかりと勉強しないと、と思ったのを覚えています。

専門についていえば、学部2年生で授業を受けたときには、ちょっと難しいことをわかりやすく話してくれる先生だ、面白い、と思ったのですが、進学してからは授業に出るたび、昔の自分がわかっていなかったことに気づかされるようになりました。

なんでもないようにされた話、言葉少なな質問の後ろに膨大な情報量があることに後で気づいては悔しくなり、ハラランボスの教科書を読む授業は2回受講しましたが、2回目は先生の話についていきたくて必死で予習しました。大学生活を通して、たいへんお世話になりました。

まだまだ言われることのわずかしかわから

ない状態でご退官されることが残念です。どうぞお元気で、また世間話のように、大事なことを教えてください。

津田 菜摘

(関連社会科学修士課程在籍)



私が関連社会科学の修士課程に入学したのは、日本に自分のテーマに合致する専門家がいなかったため、様々な教員がいて、自由にやらせてもらえそうだからという、どちらかといえば消極的な理由からでした。山本先生にご指導をお願いすることにしたのも、恥ずかしながら、当初はエスニシティを専門(の一つ)にされているということ以上に強い理由はありませんでした。より強い理由は、むしろ後から生まれることになります。

その頃の私は、関連のみならず、日本でも珍しいテーマを研究していることもあり、なんで君ここにいるの、と思われているのではないかと漠然とした不安を抱えていました。でも先生は、ごく当たり前のように私に接してくださいました。山本ゼミには実にいろいろなテーマを研究されている先輩がいらっしゃいました。先生はどのテーマに対してもご関心を示されるだけでなく、学生自身がどのような関心を持ち、いかに料理すればその関心が最大限に生かされるのかと、相手の懐に一旦入り込み、その地点から考えるご姿勢で常に対話をされていたのが印象に残っています。

入学以来博論終盤に至るまで、先生は副学部長や教養教育開発機構の立ち上げなどでおそらく最もご多忙な時期だったため、じっくりお話しする機会は限られていましたが、そうしたゼミでのご姿勢を見ながら、私は自分の学問的姿勢を確立していったように思います。

もちろん、傍観していただくだけでなく、ゼミや博論セミナーを含む様々な場面で先生から私自身に対してもご意見をいただくたびに、自分

の内側から視界が開けるような感覚を持ったのを覚えています。門外漢としての外野的な感想でお茶を濁すのではなく、対話相手の懐に入り込むその職人技（と私は思っています）によって、まだおぼつかない私自身の歩みを強力に後押ししていただいたのです。

博論も終盤に差し掛かったあるとき、先生は私の草稿をお読みになって、わたしと似ているなあ、とおっしゃったことがありました。それは何よりも私にとって自信となりました。

先生がご病気されてようやく「強制休養」となったとき、先生の病室で、初めて何時間にもわたって心行くまでお話しする機会がありました。いい加減お暇しなければと思っていたころ、先生は柿を剥いて食べさせてくださいました。先生がご自身の治療で大変ななかでのその貴重な時間とお心遣いが、私には無性に嬉しいものでした。

知らず知らずのうちに先生は私の懐に入り込み、私は先生の弟子となっていました。これからは弟子として恥じないよう精進いたします。そしてまた、病室ではないところでじっくりお話しさせていただく機会を楽しみにしております。

鶴見 太郎

（地域文化研究専攻、国際関係部会）



修論審査をしていただき、D1 前期のみゼミに出させていただいていましたが、先生のコメントにはいつもハッとさせられていました。もっと早くからゼミに出ていればなと後悔しています。どうもありがとうございました。

寺地 幹人

（茨城大学人文学部）



きちんとしたのはいつからだろう？

私は 10 年間しか駒場に在職していなかった。しかし、その 10 年間は、ずっと山本泰さ

んとの思い出である。

常に混迷をきわめている駒場において、私の頭の中はいつも愚痴だらけだったのだが、めったに愚痴は言わなかった。通常、問題は解決しないからである。しかし、泰さんには、しばしば愚痴をこぼした。何回も助けを求めた。例外的に、泰さんに言えば、解決するからである。

1、2 しか言わない僕の愚痴を、10 までわかってくれた上で、場合によっては、1、2 しかわからないふりをしつつ、アドバイスをくれた。いっしょになって解決に動いてくれた。

多くは、私からの一方的依存であったが、たまには一緒に悩み、一緒に決断することもあった。両者の判断にあまりズレはなかったのだが、一回だけ。

私：「僕はねえ、そもそも入試なんて、遅刻を認めちゃいけないと思うんだ。入学願書だって、いろいろ不備があるものについて、ていねいに修正を求めているけれど、不備がある願書を出してきた奴はそれでアウトにしちゃえばいいんだ。そうしないから、きちんとできない教員ばかりになっちゃう。」

山本：「……………」

私：「アレ？ 賛成しませんか？」

山本：「僕は入試に 30 分も遅刻した……………」
まあ、そういうこともある。

道垣内 弘人

（法学政治学研究科）



一年生の必修授業で初めてお会いしてから、ほどなく授業外でもお話を伺うようになりました。当時やりたいこともなく進学振分けに悩んでいた私は、山本先生のお話にすっかり魅了され、「こんなに面白いことが出来るのなら」とあっさり社会学専修課程に進学を決めました。今から思えばなんと単純でおちょこちょいなのかと赤面しますが、先生にお会いしていなければ、学問をさほど面白いと感ずること

もなく大学を卒業していたことでしょう。

学問以外の面でも、私が不安にとらわれ挫折そうになったときには、いつでも力強く励ましてくださいました。先生のあたたかいお言葉はこれからも私を支え続けることでしょう。

ご退官までの一年という短い期間ではありましたが、駒場（関連の修士課程）に戻ってきて、先生のもとで学ぶことができ本当によかったです。

本当にありがとうございました。

中村 文香

（関連社会科学修士課程在籍）



「これは実習じゃない、研究だ。小粒でもキラリと光る調査をしよう」。関連の1994年青森県佐井村調査での泰先生のこの言葉は、調査先に本気で向き合うという調査倫理の本質と、研究へのプライドとを、学部生の私に植え付けてくれました。

複数教員・院生・学部生が皆で一地域を探究する贅沢な佐井村調査が、私の初の地域調査経験でした。その際、調査報告集の拙稿に対する大間原発推進側からの介入を、「調査の成果は曲げられない」と先生が突っぱねて下さった、後から伺いました。1998年の神戸調査では、被災後の区画整理中で建物がまばらな琵琶町にポツンと建つ、まちづくり協議会のコンテナハウスで、先生は2週間近く、住民の皆さんの元から私達が興奮して持ち帰る話を一つ一つ聞いてくださいました。またその前に先生の授業で通った川崎市桜本では、無神経な質問をズカズカして、調査先の若者達の総スカンをくらった後輩の横に並んで、先生と一緒に謝って下さいました。

危なっかしく頭でっかちな私達に、現場に飛び込むように促し、常に興味を示し、本当に困ったら守ってくれる。自分で調査を行い、調査の授業も受け持つようになった今、真似できな

いとわかっていても、記憶の中の泰先生の言動に導かれています。

機器室 PC 管理のように実務面で生き抜く術も泰先生から授けて頂きつつ、でも「寝ても覚めても『考え続ける』のが当たり前だろう？」と弛みをさらっと見抜かれる、緊張感のあった大学院の日々。泰先生を指導教官としない私のような孫弟子も院退学後までお世話になった、先生の「博論セミナー」に象徴されるオープンな指導。関連のこんな豊かな環境の中心には、常に泰先生がおられました。今の私の土台を育んでいただいたこと、感謝してもしきれません。

西野 淑美

（東洋大学）



この度はご退官おめでとうございます。先生には短い時間でしたが、講義やゼミだけではなく、普段からも大変お世話になりました。先生が振舞ってくださる美味しい料理からも、さりげなく話してくださる世間話からも、いつも社会と人に対する先生の温かい愛を感じました。

先生のおかげで社会、そして社会学がもっと楽しく、好きになったと思います。本当にありがとうございました。これからの第二の人生、楽しく充実したものになりますように、お体を大切に元気でご活躍されることをお祈り申し上げます。

朴 慧原

（関連社会科学修士課程在籍）



フィールドワークについて生き生きと語る先生の言葉姿勢から多くを学ばせていただきました。人間の安全保障シンポジウムでのコメントに心から感謝しております！

今後もお元気に、ますますのご活躍をお祈りしております！

波多野 綾子

（人間の安全保障プログラム博士課程在籍）



機器室勤務では大変お世話になりました。泰先生はお会いするといつも色々な分野の話をしてくださり、そんな雑談からも多くを学ばせていただきました。どうもありがとうございました。

早川 有紀
(早稲田大学)



哀しみと孤独への視線。私が山本先生で想起するのは、この2つの形容詞である。社会学は常識を引き剥がしつつ、受け入れ可能なものとして新たに説明し直すことを試みるが、それゆえにその過程で、どこか手垢のついた善さや強さといった非常に素朴な価値が侵入したり、忘却や隠蔽が起りやすくなる。

そうした安直さを先生は大抵の場合、一言で崩される。「だって福祉の歴史は、言い換えれば差別の歴史でしょう」。貧困をテーマにある学生が発表したとき、貧困ラインや生活保護基準など、行政やNPOなどの支援側が抱える葛藤、そして観察者である本人が同様に抱える葛藤に行き着いた際に言われた言葉だ。

「その先を書けなければ、社会学の意味がない」。別の場面で、そうした趣旨のことをおっしゃったこともある。哀しみや孤独を見つめつつ、自らもまた無傷ではいられない場所で、それでも、なにを言葉にすることができるか。沈黙に陥りそうになりながらも、そこに生きる人のリアリティを掬いあげると同時に、内在するだけでは決して見えてこないメカニズムを明らかにすることはできるのか……、そういう姿勢で問いに向き合っておられるように、私には思えた。

それは論文「規範の核心としての言語」に、そのまま表れている。あるいは「マイノリティと社会の再生産」にも。初めて読んだときには、どちらも息の詰まる思いで沈黙に沈む以外に

なかった。展開されていることに対して、それ以上どんな言葉を継ぐことができるのか、私には分からなかった。

「詩とはなにか。それは、現実の社会で口に出せば全世界を凍らせるかもしれないほんののことを、かくという行為で口に出すことである。」と書いたのは吉本隆明で、社会学は詩ではもちろんない。けれども、「その先を書」くというのはおそらく、凍らせることや沈黙に近づくことでもある。

それゆえに山本先生は言葉少なな方だが、退官目前の時期に、その沈黙の合間からこぼれた嘆きを伺ったことは忘れられないと思う。

制度はただそこにあるのではなく、守る人がいて続いているのだということ——そんなことは基礎中の基礎だと言われてしまうかもしれないが、私たちは自らもまた制度に囲まれ、制度を作り出したり、修正したり、それに抗しながら生きていることを、しばしば容易に忘れる。特に与えられているものに関しては——を改めて教えられた。

私自身も教養学部の存在ゆえに、この大学の門を叩いた一人でした。

ありがとうございました。

また頻繁に駒場にいらっしゃると伺っています。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

樋口 あゆみ
(相関社会科学博士課程在籍)



ご退官おめでとうございます。先生との出会いを通じて、“question すること”の面白さを教えていただきました。先生とアメリカ社会やリトルトーキョーを語りあったり、時に直感ベースの私の考えに対して、毎回正面から受け止め、5倍・10倍の膨らみを持ってご丁寧にお返し頂いていた日々が懐かしく思います。先生との意見交換のキャッチボールは、楽しくて

たまりませんでした。学ぶこと、考えることの楽しさを教えていただきました。心より感謝申し上げます。

先祖のお墓がお隣同士というご縁にも、先生との運命的な出会いは神様からのお計らいがあったのだとご先祖様への感謝の気持ちも忘れておりません（笑）。ぜひアメリカにも遊びにいらしてください。これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。

樋口 博子

（人間の安全保障プログラム博士号取得、
在米）



たくさんお世話になりました。お疲れ様でした。ありがとうございました。

傅 凱儀

（法政大学人間環境部）



山本先生と初めてお会いしたのは、工学教育推進機構と教養教育開発機構の同時の設立（2005年）が決まる前に、当時の古田教養学部長をおたずねした時ではないかと記憶している。15年近くのお付き合いであろうか。それ以来折々、いろいろな助言をいただいたり、アイデアをいただいたりしてきた。

私が定年近くなって、学術俯瞰講義のお世話係として大学総合教育研究センター（大総センター）の特任教授になるという話も、山本先生と永田敬先生の仕掛けた畏にかかったというのが真相である。その後、学術俯瞰講義の開催を今のような形に整理した時、e-ラーニングシステムを使って俯瞰講義を18号館1階から学内中継を行うことを決めた時、毎回の講義のコーディネーターをどなたにお願いするかなどの折々に、常に山本先生は黒衣に徹しつつ、その成長の支えやお手伝いをお願いし助けていただいた。

また現在、学内各学部で定着し、また教育改

革の具体的データの裏付けとしても活用されている達成度調査は、実は山本先生のアイデアであり、それに私がのって大総センターに持ち込んだものである。

このように、山本先生には多くのことで東京大学の法人化以降の改革にお力添えをいただいていた。大総センターを陰で支えてくださっている方は学内外に沢山おられるが、山本先生もそのお一人である。

今後、山本先生の代わりに私の相談相手は見つからないと思う。私自身も間もなく東大での仕事からは足を洗うつもりであるから、自分にとってはそう困るわけではないが、東大にとってはちょっと困ったことになるなど、心配している。

藤原 毅夫

（大学総合教育研究センター、名誉教授）



おめでとうございます、長い間本当に有難うございました。

船津 衛

（人文社会系研究科）



たい先生、お疲れ様でした。社会学は僕にとってもぶつかり合いの学問というより、ツール・見方です。

今後たくさんのぶつかり合いをしながら生きていきたいです。先生も有意義にお過ごしください。

ヘルシン デービット

（三菱総合研究所）



長い間お疲れ様でした。英語の社会学の教本を読む授業がしんどかったですが、あれで体力がついたのかなとも思います。神戸の調査も実り多いものでした。

星 純子

（学部2000年卒、茨城大学人文学部）

◆

山本泰先生とは、2号館6階の機器室で支援員のアルバイトさせていただいた時にお世話になりました。

あまりネットワークのことをよく知らない私に対しても親切丁寧に説明していただき、非常に心地よい勤務場所となりました。そして多くの技術的なことを学ばせていただきました。その後、東文研に助手として採用されたのも、機器室で培ったスキルがあったからこそです（東文研での主な仕事はサーバー管理だったので）。そして現在、研究職に就いてられるのも、機器室バイトが一つの大きな要因だと思っています。その意味で、山本先生には心より感謝しています。

あれから16年が経過、時間の経つのは早いですね。いつか駒場でお目にかかる機会があると思ったのですが、全くなかったのが残念でなりません。

山本先生が退官されるのは本当に寂しい限りですが、今後のご活躍を陰ながら追跡して行きたいと思っています。

長い間お疲れ様でした。

保城 広至
(社会科学研究所)

◆

2005年から今まで、駒場で、そしてその後も大変お世話になりました。先生のご指導の下で社会学の楽しさを再確認する事ができ、また駒場を離れてからも先生とのお話を通して様々な刺激をいただきました。今後も社会学者・教育者として頑張りますので、今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。先生の今後の一層のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

細木 一十稔 ラルフ
(カリフォルニア大学アーバイン校博士課程在籍)

◆

山本泰先生、このたびは教養学部を退官なさるとのこと、長年の教育と研究における先生のご功績に、まずは心より尊敬と労いの言葉をお送りします。

相関への進学が決まってから最初のタイ先生の授業で（…おそらく sociological imagination についての講義だったかと思えます。どんなやりとりだったか詳細は忘れてしまいましたが）、「それは born to be sociologist ですね」と先生に言っていただいたことは、その後のわたしにとって大きな勇気と自信の源になりました。

あれからはや16年。

社会学者にはなれませんでした。いまわたしは医療の現場で、sociological imagination を頼りに、日々悩みつつ患者さんに向き合っています。タイ先生はじめ、相関の先生方から教えていただいたことは、確実に今日の自分の血肉となっていると、改めて感じます。

タイ先生のいらっしゃらない2号館は想像するのは難しいですが、どうぞこれからもたくさん学生の社会学の奥深さを伝えていってください。本当にありがとうございました。

前嶋 愛子
(国立がん研究センター中央病院)

◆

私と山本先生の出会いは、教養学部2年生の冬学期「社会学理論」の講義に出席したときです。以来、6年間山本先生にご指導賜りました。

山本先生が教養学部で開講された「社会学理論」の印象は、いまだ大学という場所にあって、実なる感覚を得られず浮動していた当時の私にとり、あまりに電撃的なものでした。「きみは社会ってなんだと思う？社会ってなんなんだろうね」「この世界で、もっとも・・・もっとも基本的な区別はなんだと思いますか？」

「表の行と列、どのような向きに読んでいくのが正しいと思う？それはなぜだろうね？」・・・これらの平易な言葉によって、忽然と問われた数々の問いは、私の貧弱なあたまをあっというまに焼き焦がしてしまいました。あのときの体験がなければ、いまの私はありません。私は、いまだに、山本先生が放たれた幾筋もの電撃に貫かれ続けています。

論文指導の場において、私が山本先生から賜ったものは、あまりに大きく、感謝の言葉を尽くしても尽くしきれません。多くのひとが、できることなら考えずに済ませようとするような、社会のタブーに属するテーマを選択した私にとって、ほんとうの支えになってくださったのは山本先生です。山本先生から賜った励ましのなかでも、次の言葉は忘れることができません。「どんな土地でも、ひとつの場所を深く掘っていけば、いつかは地中から真っ赤な血が吹き出す」。この言葉は、大学院で過ごしてきたこれまでの私にとって最も大切なものであり、これからの人生における唯一無二の指針です。

末筆になりますが、先生のますますのご健勝を祈願いたしております。ありがとうございました。

前田 和宏
(相関社会科学博士課程在籍)



山本先生、この度はご退職おめでとうございます。博士課程入学以来、長らくご指導を賜りました。心より御礼申し上げます。ご指導の合間に、サモアなどでのエピソードを耳にするのが楽しく、今も心に残っています。先生の今後のご健康と、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

松井 智子



大学教員になってみて、山本先生と同じようなことをしている自分に気づきました。「親の

こころ子知らず」という言葉が身に沁みました！

松田 ヒロ子
(神戸学院大学)



相関は 1986-1998 までお世話になりました。計量・数理を教えておりました。金井、石原、岩澤さんなどの俊秀が出ました。

1990 年代前半の大学院重点化の時は先生には大変お世話になりました。私自身はジキルとハイドで、従前より哲学、政治哲学、社会哲学に大きな個人的関心があり、皆さんとの議論もたのしく人生の最も幸せな時間を過ごさせていただきましたが、他方、納税者に対しては、実証研究がさらに重要と言い張ったことを思い出します。その未完のプロジェクトは今日の学問や大学の危機とは無関係ではありません。多分、先生には当時でさえすべてお見通しで、全幅のご理解には今も深く感謝しております。相関の学問が人類の国際公共財になりますように。

Berger は Credo の世界に住めず (牧師になれず)、結局 Cogito の世界に墮ちた。やはり、とどのつまり、Cogito は bore である。

でも、山本さんは牧師のような人でしたネ。

松原 望
(聖学院大学客員教授)



私が山本先生のゼミに頻繁にお邪魔させていただくようになったのは、2011 年頃でしょうか。それ以降、授業時間だけでなく、食事会や手伝いといった集まりにも呼んでいただきました。ゼミというのは不思議なもので、他のゼミとほとんど同じメンバーでやっても、全く性格を異にする空間になってしまうものです。現在の山本ゼミは、みんなで食事をつくる機会も多く、「共同体」という言葉が似合

います。あるゼミ生の口から「先生は酋長で、僕らは祭りの準備をする村の若い衆なんだ」という言葉が出るほどです。

しかし、最も大きな違いが生まれるのは、やはりゼミでの議論の進め方なのかもしれません。特に感じるのは、学生同士の議論の後に先生が見事に整理されるゼミと、先生も参加者の一人として議論に参加されるゼミの違いです。山本先生は後者のタイプで、議論の参加者として発言して下さったという感じがします。

色々なところで「山本先生は、それを突くと一発で議論が崩壊するような穴を見つける人だ」という言葉を耳にします。しかし、ゼミを通じて私が見た山本先生は、どこかもっと探索的であったように思います。先生はしばしば「本当にそれだけなのかなあ」という言葉を発しておられました。それは、よくある論点に対するよりよい解答を求めているわけでも、単に多様な論点を求めているわけでもなく、他の論点と比べて本質的に新しい論点がないかを探す言葉であったように思います。

その姿は、どこかに予想外の種が転がっているか、いつもアンテナを張っているように見えました。先生が口にされるアイデアが、しばしば他にないみずみずしさを持っているのも、そのせいなのかもしれません。私も、少しでも先生に近づけるよう精進したいと思います。ありがとうございました。

松村 一志
(相関社会科学博士課程在籍)

長い間お疲れさまでした。これからはご自身が楽しむための時間もたくさんとって下さい。

丸山 康司
(名古屋大学大学院環境学研究科)

これからますますお元
気で御活躍を!!

見田宗介

先生に「ピンポン」をいただくとちょっとうれしくなりますが、「ホント?」を頂戴すると数年単位の旅に出ることになります。学部から博論まで、長い間お世話になりました。

すでに相関を離れて7年、少しずつ最後のころの「ホント?」に伝えてきたとは思いますが、これからも「ホント?」と言われてしまうかな?という感覚を忘れないように、精進したいと思っております。先生のますますのご多幸を心よりお祈り申し上げます。

元森 絵里子
(明治学院大学社会学部)

ご退官おめでとうございます。34年間、本当にお疲れさまでした。

学部長室勤務では大変お世話になりました。子育てと仕事の両立に戸惑う私をいつも優しく励まして下さったこと、感謝しています。ありがとうございました。

これからもお体に気をつけて、ますますのご活躍をお祈りします。

またいつか札幌でお目にかかれそうですように。

盛 由美
(学部長秘書 OG)

大学院、そして、その後の大変長期にわたる研究のご指導に、心から感謝いたします。小国町調査での、先生を交えての議論や関係者の方がたとのやりとりの経験は、現在まで、調査のフィールドや対象との向き合い方を考える上

での原点となっています。そして、研究室、ゼミナール室で、さらに、喫茶店や同窓会館の部屋で、そして、たまの飲み会で先生が発する言葉は、その時はピンとこなくても、しばらくして仕事や研究の重要な道標になったことが多々ありました。

先生のような恩師に出会えたこと、幸せです。これからもよろしくお願い申し上げます。

森川 美絵
(国立保健医療科学院)



ヒトラー・レジームの研究にうつつを抜かしています。山本さんお元気に！

谷嶋 喬四郎
(名誉教授、社会思想史)



大変お世話になりました。特に「人間の安全保障」プログラムの立ち上げ前後ではいろいろと助けていただきました。多謝

山影 進
(青山学院大学、名誉教授)



社会学ワンダーランドでお世話になりました健康社会学の山崎喜比古です。

今日の最終講義を伺って、先生のようなフィールドワーカーでかつ学者という生き方をしたかったとつくづく自分の人生を反省させられました。じわり素敵な最終講義をありがとうございました。

山崎 喜比古
(日本福祉大学社会福祉学部)



30年以上も駒場でのご活躍、本当にご苦労様でした。

山脇 直司
(星槎大学学部長、名誉教授)



6年前、研究生として山本先生のゼミ生とな

って、はじめて社会学を学びました。

先生のお話は私にとってはとても難しく、先生がさりげなくお話されていたようなことがその場ではわからず、何年か経って、論文が書き終わった後などに、「先生のあの言葉はこういう意味だったんだ！そんな大事なことを…」と気づくことがよくあります！

ゼミ以外でも、駒場友の会の作業の時や先生が作ってくださるお料理をご馳走になる会などで聞けるお話からもたくさんの社会学を学びました。先生のご指導のもとで勉強できたこと、とても幸せでした。

研究生のみならず、留学生活においても大変お世話になり、心から感謝しております。

ご退職おめでとうございます。先生の今後のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

柳 采延
(相関社会科学博士課程在籍)



ご退職されます事をお祝い申し上げます。私は山本先生にはゼミで何度かご指導賜りました程度ですが、何かで北野高校の先輩という事を知り、何気に親しみを持っておりました。色々とありがとうございました。

先生の思い出といえば、Haralambosの教科書の宗教のチャプターを読んだ後でクリスマスケーキを食べると、事あるごとにおっしゃっていたのでゼミの後にケーキが出てくるのかと楽しみに行ったら何もなくてがっかりするなど、ちょっとした話がワンダーで本意と理解できずに少々苦労した事でしょうか。クリスマスの度に思い出す良き思い出です。

退職されましてもどうぞお元気にお過ごし下さい。

吉川 美華
(東洋大学)



先生の単位を落としたことがあって、それが

悔しかったので聴きにきました！

李 燁明



山本先生、ご退職おめでとうございます。東大の山本ゼミに入ってもう5年が経ちました。

先生がいらっしゃるときにしっかりと論文を執筆し終えたら良かったと後悔する気持ちが正直にあります。しかし、これまでご指導いただけましたこと、本当に嬉しかったです。最後まで諦めない決心を持ちました。

先生には数えきれないほど大変お世話になりました。論文が上手く進まないときには、先生からのアドバイスをいただき、本当に心強かったです。諦めず学術活動を継続できたのは、暖かいご支援があったからだと心より実感しております。また、奨学金申請の際にも、推薦状を書いていただき、本当にありがとうございました。東京大学で多くのかげがえのない学びがありました。

ご期待に応えられるように、最善を尽くします。今後とも末永いご多幸とご健康を心よりお祈り申し上げます。退職のご挨拶とさせていただきます。

林 徳仁

(相関社会科学博士課程在籍)



研究生として1年ほどの異文化体験を楽しむつもりで留学した東京大学で、博士課程にまで進むことになってしまったのは、山本先生のおかげだと言っても過言ではないです。

Japanese studies がなかったのが漠然とした思いで願書を出したのがたまたま相関だったわけですが、山本先生に出会い、社会学というものの見方を発見したのです。ありがとうございます！

常に人と人との関係へ目を向ける姿勢を、これからも見習っていきたいと思います。

Rosa Lee

(相関社会科学博士課程在籍)



山本先生の授業を初めてとったのは、相関社会科学に進学した1983年の夏学期の「文化の社会科学」でした。一回目の授業で「次回は僕が、『文化とは何か』という話をします」と言っていたのに二回目は休講で、翌週現れた先生が「いやあ、文化って何なのか考えていたら分かんなくなっちゃってさあ(笑)」と言われたのを鮮烈に覚えていて、私自身が文化について講義をするときには必ずこの話をしています。

学生時代の山本先生が指導教官の高橋徹先生に「先生、社会学って何をする学問なんですか？」とたずねて「バカモン！ 貴様、勉強もせんで何を言うか！ 十年早い！」と怒鳴られたという話も、時々使わせてもらっています。

そんなネタ的な話以外にも、「結局、社会学って“人と学問”なんだよね」とか、「トポロジーがないと都市論とは言えないんじゃない？」とか、学部時代から駆け出しの教師時代にかけて先生から言われたあれこれは、私にとって「社会学すること」の規準のようなものになっていて、そうした言葉にずっと試され、また支えられてきたように思います。

こんなことを言うと、「僕はあなたの元指導教官だけど、責任教官じゃないからね」と笑われてしまいそうな気もしますが、私にとって山本泰先生はそうした意味で今でも“師”であり、“先生”であるのです。御退任を機に、改めてお礼を申し上げたいと思います。

若林 幹夫

(早稲田大学)



御指導をいただき、誠にありがとうございました。

若松 邦弘

(東京外国語大学)



東京大学教養学部
発行人 光田 勇
1982年5月15日

新任教官紹介

(この欄は最初に著者の自己紹介、▼印以下が迎える言葉となっています。)

社会科学科

社会学

山本 泰



この四月、本郷の新聞研究所から教養学科第三及び社会科学科に移り、社会学の教育・研究を担当することになった。

駒場キャンパスは、思えば十年ほど前に、つまり一九七〇年四月に文科Ⅲ類に入學してから七二年の六月に文学部社会科学科に進學するまで学部生としてお世話になったところであり、今回赴任して、何やら古巣に戻ったような懐かしい

気持ちが出てはならない。

私が駒場に入學したのは紛争の余韻の冷めやらぬ時期で、自ずから現代社会のはらむ制度的な諸問題に目を開かされた。このこともあって、本郷では社会学を専攻したが、社会学プロパーというよりは、哲学、人類学、言語学の隣接領域からのアプローチに力を注いだ。また、三年前から新聞研究所に籍をおいて、ポリネシアのサモア社会の財・女・情報の交換システム、及び、現代の「消費社会」の記号論的な構造分析に取り組んできた。

これらの研究はどれも継続中だが、一学際研究を掲げた本学科に奉職するのを機会に、初心に帰って、多領域・多地域にまたがる具体的な研究に一層努力していきたい。

(助教授)

▼社会学教室では、本年三月に定年退官された松島静雄教授の後任として、山本泰助教授をお迎え

することになった。

山本助教授は、一九五二年二月三日のお生まれ、本年三才の新進気鋭の社会学者である。

七四年に東大文学部社会科学科を卒業され、同大学院に進学、七八年秋に博士課程を退学され、この時から本学部に移られる本年春まで、新聞研究所の助手をしておられた。

お仕事は大きく分けると二つの流れに分けることができる。

第一は、コミュニケーションの基礎理論の研究で、その主要なものには、「思想」誌六三五号(一九七七年)に発表された「八共存在」様式としてのコミュニケーション」、および、「ソシオロギス」誌第三号に発表された「規範の核心としての言語」である。

モア社会における交換システムの構造」としてまとめられている。なお真鳥夫人は、マーガレット・ミードの名著「サモアの思春期」(倉橋書店)の邦訳者であるが、これは名訳といつてよい。

山本氏の学歴は、シャープな知性とナイーブな感性とを兼ね持った、すべれた人物である。

さしあたり本年度は、文科一、二類生のための社会学概論を、夏学期の元島邦夫講師を引継いで、冬学期に担当される。また教養学科の学生のために、これも冬学期、「人間科学」を開講される。

2行目▼以降の記事は、見田宗介先生による。